ISSN 2187-6835

Citrina 通信

キトリナつうしん
No. 880

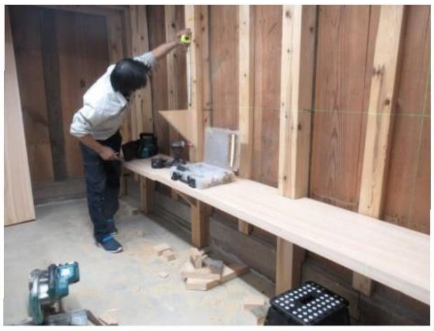
虫の里 21 現場レポート

昆虫館売店の陳列棚
Shelves of Museum Shop

昆虫館の入り口ホールの大テーブルに続き、売店の陳列棚の設置工事の立会いをした。今回の棚板材も地元押田製材所の押田社長から超格安で提供いただき、大テーブルと同じく永山大工に施工をお願いした。

■材質は昆虫館内の湿気対策を考えて、押田社長が調湿性の高いサワラ材で、厚さ 6 cmもある節なしの無垢材を選んでくれた。そして、幅 5.6m、4 段の立派な棚が完成した。設計では厚さは 3 cmもあれば十分と考えていたが、厚さ 6 cmの材は土蔵の 12 cm角の構造材や大テーブルと相まって、重厚な雰囲気になった。

■これで建築工事は概ね終わり、後は商品をセレクトして陳列すれば、11 月 2 日のグランドオープンに向けて入り口ホール周りの準備は整う。



（寺章夫／2025 年 9 月 21 日）

虫の里 22 現場レポート

矢祭小学校の理科課外教室

Extracurricular Science Class at the Yamatsuri Elementary School

福田晴男

矢祭町教育員会からチョウについての理科の授業をやってもらえないかとの依頼が私のところにきた。3月のプレオープンの祝典の時に、私が小学校の理科教育に携わっていたことから、来賓の菊池篤志教育長からの「是非子どもたちをこの昆虫館に見学に連れてきたい」との話が実現したのだ。

■新学期が始まった 9 月 4 日、午前中に 6 年生 52 名、5 年生 43 名、午後からの 4 年生 49 名の子どもたちが、2台のスクールバスで次々に引率の先生たちと一緒に昆虫館に来た。母屋のロビーで実物の標本を見せながらパワポを使って約1時間の授業を進め、その後昆虫館に移動して展示標本ほかを案内した。

■私の懸案だった福島県南会津郡舘岩村（現南会津町舘岩）の風穴地に生息していたフタスジチョウの話をする機会が訪れた。美ノ谷憲久氏が 1983 年 9 月 26 日に南会津の人為分布のユキヤナギでフタスジチョウの幼虫を発見したことが風穴地発見のきっかけとなった。二人が調査研究を繰り返す中で、いくつかの冷涼な風穴地において、自然分布のアイズシモツケに付くフタスジチョウの生息が確認された。その発見に至る科学ドキュメントは 1986 年 6 月に発刊された「見つけた！まぼろしのチョウ（大日本図書・子ども科学図書館）」に詳しい。

■残念なことに、風穴地のフタスジチョウは、2000 年代に入って絶滅した。主な理由は「地球温暖化」と考えている。私は、まず、子どもたちにフタスジチョウが風穴地で発見されるまでの研究を紹介し、解決していくプロセスでのワクワク感をパワポで共有してもらった。風穴地を発見し、そこに飛翔するフタスジチョウを発見したとき、二人は目から涙が零れ落ちるくらい感動したと語った。その場面はパワポを通して子どもたちに十分伝わったと思う。

■また、1986 年当時の風穴発見時の音声付きビデオ（美ノ谷氏も私も若い）も子どもたちに見せた。絶滅する前のフタスジチョウの飛翔動画は貴重なものとなろう。1986 年に発刊した「見つけた！まぼろしのチョウ」を矢祭小学校にプレゼントした。「みなさんで読んでいただければ嬉しいです」と伝え、6 年生が見ているところでサインをすると、「ありがとうございます。読ませていただきます」とつぶやき声が私の耳に届いた。矢祭小学校の子どもたちの心は温かい。

風穴発見のビデオなどパワポで説明

本を学校へ寄贈

■南米フレンチギアナで青いモルフォチョウを青いウチワでおびき寄せて採集する動画を見せると、子どもたちから「すごい・・・」と歓声が上がった。昆虫館では、南会津で絶滅したフタスジチョウの説明を聞く子どもたち、地球から絶滅した南米ブラジルのイピタスタイマイの話を聞く子どもたち、大いに盛り上がった。

■母屋の前で各学年ごとに記念撮影をし、矢祭小学校の子どもたちは学校に帰っていった。虫の面白さを感じてもらった手応えを感じつつ、アシストしてくださった佐川泰子様に感謝し報告を終わりたい。

4 年生

5 年生

6 年生

※右下の１枚を除き矢祭小学校のホームページ https://yamatsuri.fcs.ed.jp/yamatsuri-es/より転載

（虫の里・福島奥久慈設立の会顧問・グループ多摩虫代表　福田晴男／2025 年 9 月 5 日）

虫の里 24 現場レポート

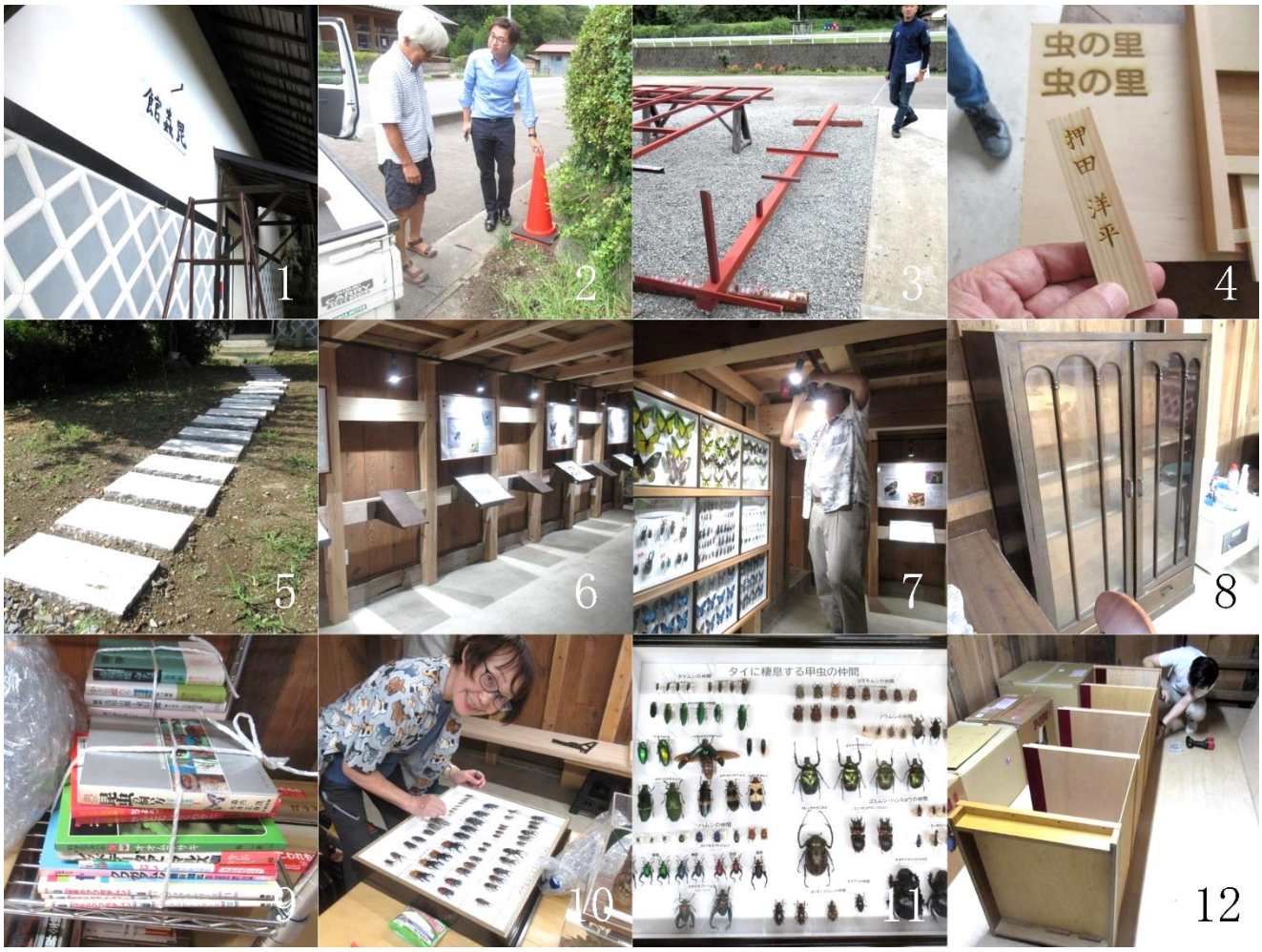
グランドオープンに向けて準備が

Preparing for the Grand Opening

グランドオープンまで約1ヶ月となり、多岐にわたる準備作業を進めている。3月にプレオープンをしたのは正解で、その実績を踏まえ、はっきりとした昆虫館のイメージがつかめ、修正、肉付けができた。資金難の中で最大限の効果が出るように関係者の知恵を出し合うと、次々と名案が出る。地元の業者さんたちも協力的で、さながら「オール矢祭」と言った感じで頼もしくなる。9 月 19、20 日の現場作業の一部を紹介したい。

1　奥本大三郎名誉館長に書いていただいた「昆蟲館」の文字の位置を現場で確認。グランドオープン当日の除幕式のイメージが湧く／**2**　昆虫館の幹線道路からの導入看板の支柱を立てる位置を現場で検討した。4m以下の高さなら袖看板が道路上に出ても申請なしで設置できるとのこと。申請手間と時間が省ける／**3**　導入看板の鉄製支柱の仕様を増子看板の加工場で確認。このサイズなら鉄骨工場に外注しなくても作れるとのこと。自社で全て作れるのは頼もしい／**4**　寄付者看板の名札のレーザー文字を確認。これも増子看板の自社のレーザー彫り機で加工できる／**5**　酷暑の中、地元の片野惠仁さん他の皆さんの手により昆虫館への園路に花崗岩の踏み石が敷きつめられた。これで雨の日も足元が安全だ／**6**　昆虫館の標本箱展示台4個を、3個増やし、スポットライトも増設した／**7**　KI 企画の小原洋一さんの手で大型展示枠のスポットライトを効果的な位置に移し、1台追加／**8**　入口ホールに KI 企画から昭和レトロなガラス収納棚の寄贈があった。イメージしていた昭和 100 年だ／**9**　KI 企画や寺からの昆虫関係の書籍をストックして、まとまったところで町立図書館に寄贈して管理番号を貼って昆虫館で活用してもらうことを予定／**10**　小原みね子さんが寄贈標本を補修。きれいに並べると標本も輝いて見える／**11**　今回、中江信館長から人気の甲虫類の標本箱 6 個と KI 企画から1箱の寄贈があった／**12**　齋藤太増光氏から標本ダンス3本の寄贈があり、東京から運んで、石射事務局長と収蔵庫内で組立てた。

（寺章夫／2025 年 9 月 24 日）



奥久慈 食べ録 ⑤

和泉屋旅館　塙町塙湯岐 17

■いつも「ユーパル矢祭」ばかりに泊っているので、昆虫館のプレオープンの時に、嗜好を変えて矢祭の奥座敷湯岐温泉の「和泉屋旅館」に関係者4人で泊まった。湯岐温泉は 500 年近い江戸時代からの温泉場で、今では2軒の旅館がほそぼそと続いている。往きは矢祭町から西に向かって狭い山道を登ったが、あまりの狭さに運転の森さんは悲鳴をあげていた。

■泊り客は我々４人だけで、丁場の前で部屋割のぐーぱージャンケンをした。20 回ほどやってようやく2組に分かれ、私は森さんと同室になった。6 帖ふた間の和室でトイレと洗面がついていた。

■露天風呂はないが、３人ほどが入れる浴室が二つあって、源泉かけ流しはかなりぬる目で長時間入ってないといけなく、すぐに隣の温かい湯に移って、浸かった。更衣室が別なので身体を拭いて浴衣を羽織って移るのは少々不便だが、男女分ける時のためだろう。

■夕食は4人で個室食堂で食べたが、かなり豪勢でお酒も進み満腹になった。2時間ほど話に花が咲いたところで、女将が「そろそろ･･･」と言うので、お開きにした。部屋は 6 帖間に布団が2組あって、年寄り二人が枕を並べて寝たが、山奥なのでさすがに静かでよく寝られた。

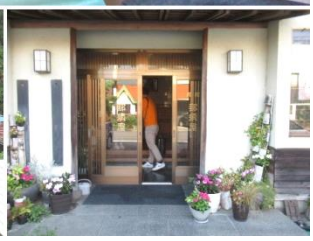
■朝食も個室食堂で食べて、チェックアウト。1.3 万円は、ユーパル矢祭の朝食付き 7,500 円に夕食が付いたと考えると納得。帰りは塙町経由で帰ったがこちらは道幅も広く安全でスピードが出るせいか、倍以上の距離でも時間を感じなくて、今度来るときは断然この道だと話した。

那須屋旅館　矢祭町東舘舘本 46-1

■宿泊経費削減と、常泊のユーパル矢祭が満室の時の代わりの宿泊のために、東舘駅近くの那須屋旅館に虫の里事務局長の石射氏と泊まってみた。

■古くからの旅館で、客室は和室 5 部屋ほど？で、玄関前に車2台分の駐車スペースがある。部屋は昭和の設えで、50 年前にタイムスリップしたようで、物悲しさと懐かしさが混じる。洗面もトイレも共同で、お風呂は内庭の離れにある。

■気立ての良さそうな若い女将の作る朝ご飯が評判と聞いたが、確かに普通の旅館の朝飯とは一味違う。地鶏の生卵はシソの実の醤油漬けを混ぜて食べる。ナスのみそ炒めやお浸し、みそ汁は手作りのおふくろの味だ。サービスのホットコーヒーも美味かった。朝食付きで 6,000 円はリーズナブルだ。



（寺章夫）

タイトル画像：絶滅産地のフタスジチョウ　1985 年 6 月 23 日
福島県南会津郡舘岩村（現南会津町舘岩）　採集：福田晴男